

# 熊本競輪場施設整備基本計画



平成 30 年 12 月

熊 本 市

## 計画策定の目的

---

戦後の復興期において地方財政にかかる資金を調達する目的で誕生した競輪は、すぐに全国に広まり巨大な公営競技へと成長し、現在まで70年にわたり全国のファンに親しまれている。競輪は、初期に騒擾事件が多発したことの影響から負のイメージを付与されていたが、1996年アトランタオリンピックで競輪選手がメダルを獲得し、2000年シドニーオリンピックではケイリン（KEIRIN）が柔道に次ぐ日本発祥のオリンピック競技となるなどイメージアップが図られ、自転車競技の発展にも大きく貢献している。

熊本競輪は昭和25年7月の開設以来、累計660億円以上を熊本市一般財源に繰り出し、都市基盤の整備等市民生活の向上に大きく貢献してきた。平成に入り、レジャーの多様化やファン層の高齢化などにより車券売上は減少を続け、平成26年度には売上が上昇に転じてきたものの、施設の老朽化などの課題も顕在化しており、競輪事業の活性化に向けた取組みが必要となっていた。

その最中、平成28年4月に発生した熊本地震は、震度7クラスの揺れが短期間に2度も起こり、広域にわたり大きな被害をもたらした。夜間であったため、熊本競輪場では競輪は開催されておらず施設内での人的被害はなかったが、ほとんどの建物が損傷し、それ以後の自場開催ができない状況となった。

危険箇所の撤去とバンクなどの応急修理は行ったものの、全面的な復旧には多額の経費を要し、将来にわたる経営存続を疑問視する意見と、雇用の減少や地元経済の低迷を避けるため復旧を望む声とがあり、施設復旧を含め競輪場のあり方について慎重に検討を行う必要性が生じていた。

そこで、「熊本競輪事業検討会」を設置し、経営面、将来性、雇用等の社会貢献、アマチュアスポーツとしての自転車競技の普及・振興などさまざまな観点から中長期的な方向性を検討した。その結果、復興財源として寄与するためにも現地で早期に縮小再開が望ましく、地域貢献、災害対応、アマチュアスポーツの振興の3つの理念の実現を求める意見がまとまった。

熊本市は、検討会の意見を受け、「競輪事業の収益が熊本地震からの復興財源に寄与する」こと、「競輪施設が新たに防災拠点として生まれ変わることで復興のシンボルとなり得る」と考え、熊本競輪場の再開に向け取り組んでいくこととした。

このような経緯のもと、これまでの検討会の意見や庁内での各種検討を踏まえ、再開後の施設規模や施設復旧の手法、敷地全体の整備のあり方を整理し、基本計画として取りまとめることとなった。

「熊本競輪場施設整備基本計画」は、熊本競輪場が防災面の強化を図るとともに地域コミュニティ機能を担い、地域に開かれたスポーツ施設として生まれ変わるため、また、競輪事業の収益（繰出金）が熊本地震からの復興期における復興財源として寄与するための施設の整備を目的として策定するものである。



# 目 次

## 第1章 熊本競輪場の現状と課題

1. 競輪事業の全国的動向 ..... 1
2. 熊本競輪の状況 ..... 5

## 第2章 施設整備の検討

1. これまでの検討および再開決定の経緯 ..... 19
2. 再開に必要な施設規模 ..... 24
3. バンク周長と施設整備手法の検討 ..... 27
4. 施設整備の検討結果について ..... 37

## 第3章 施設整備の方向性

1. 復旧の考え方 ..... 39
2. 復旧・解体する施設の整理 ..... 41
3. 施設整備のイメージ ..... 47

## 第4章 施設整備の具体的内容

1. 施設整備に必要となる機能 ..... 49
2. バンクおよび敷地整備の計画 ..... 53
3. 建物改修の概要 ..... 57
4. 災害時の対応 ..... 70

## 第5章 計画の実現に向けて

1. 設計範囲の明確化 ..... 73
2. 法的課題への対応 ..... 76
3. 概算事業費および整備財源 ..... 78
4. 想定スケジュールおよび発注計画 ..... 79



## 第1章 熊本競輪場の現状と課題



## 1. 競輪事業の全国的動向

### (1) 競輪事業の概要

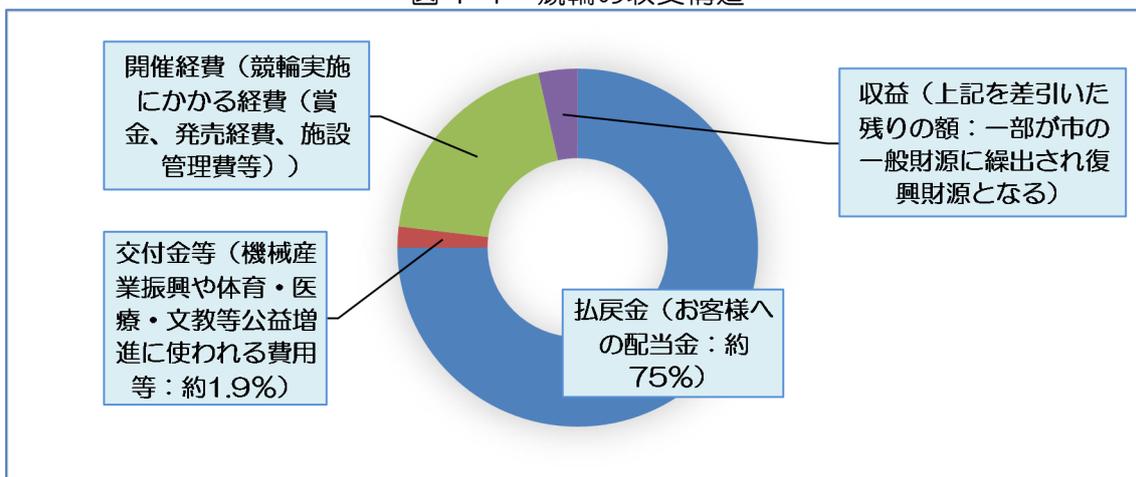
#### ①競輪事業の概要

◇競輪事業とは、自転車レースの勝者を対象とした投票券（車券）発売により、その収益金を公益事業への補助金や地方公共団体の財源として活用することを目的に実施されている。

◇自転車競技法では、競輪事業の実施は、以下の3点を目的と定義している。

- 自転車その他の機械の改良および輸出の振興、機械工業の合理化に寄与する
- 体育事業その他の公益の増進を目的とする事業の振興に寄与する
- 地方財政の健全化を図る

図 1-1 競輪の収支構造



（資料）JKA 資料等より作成

◇昭和 23 年に小倉市（現：北九州市）で初めての競輪が開催され、約 70 年続いている。昭和 47 年以降長い間 50 ヶ所で実施されていたが、売上減少とともに競輪場数も減少し、現在全国 43 ヶ所となった。熊本競輪は、全国で最も南に位置する競輪場である。

◇平成 30 年 12 月現在、競輪場は 43 ヶ所、競輪場で行われているレースの車券を発売している場外車券売場（専用場外）は 71 ヶ所あり、山形県、長野県、石川県、沖縄県以外の全国に広がっている。

◇各競輪場では、レースを開催していない日には他の競輪場のレースの車券を発売し（場間場外）、来場者のニーズに答えている。

◇発売方式としては、これらの他に、パソコンや携帯電話（スマートフォン）でも、車券を購入（電話投票（インターネット投票））することが可能である。

第1章 熊本競輪場の現状と課題

表 1-1 競輪場・場外車券売場の分布

北海道・東北	競輪場	場外車券売場	近畿	競輪場	場外車券売場
北海道	函館	サテライト石狩	福井県	福井	
		サテライト札幌	滋賀県		サテライト湖南
		サテライト松風	京都府	京都向日町	
青森県	青森	藤崎場外	大阪府	岸和田	サテライト大阪
		青森前売SC	兵庫県		サテライト阪神
		サテライト六戸			サテライト姫路
岩手県		サテライト石鳥谷	奈良県	奈良	
宮城県		サテライト大和	和歌山県	和歌山	
		サテライト宮城	中国・四国	競輪場	場外車券売場
秋田県		サテライト男鹿	鳥取県		サテライト鳥取
		サテライト六郷	島根県		サテライト山陰
山形県			岡山県	玉野	サテライト笠岡
福島県	いわき平	サテライト会津	広島県	広島	サテライト津山
		サテライト福島			サテライト山陽
		サテライトあだたら	山口県	防府	駅前SC
		郡山場外			サテライト宇部
		サテライトかしま	徳島県	小松島	サテライト鴨島
関東	競輪場	場外車券売場			サテライト徳島
茨城県	取手	サテライト水戸	香川県	高松	サテライト観音寺
		サテライトしおさい鹿島	愛媛県	松山	サテライトこまつ
栃木県	宇都宮				サテライト西予
群馬県	前橋	館林場外			二番町前売SC
		利根西前売SC	高知県	高知	サテライト南国
		サテライト前橋			サテライト安田
埼玉県	大宮		九州	競輪場	場外車券売場
		西武園	福岡県	小倉	サテライト北九州
東京都	京王閘 立川	ラ・ピスタ新橋		久留米	ハイビジョンシアター門司
					サテライト若松
					サテライト久留米
新潟県	弥彦	サテライト中越			サテライト中洲
		サテライト新潟			サテライト武雄
		サテライト妙高	佐賀県	武雄	サテライト長崎
山梨県		サテライト双葉	長崎県	佐世保	サテライト熊本新市街
長野県			熊本県	熊本	サテライト宇土
千葉県	松戸 千葉	サテライト鴨川	大分県	別府	サテライト宇佐
		サテライト市原			宮崎県
		サテライト船橋			サテライト三股
		サテライト成田			サテライト門川
神奈川県	川崎 平塚 小田原	サテライト横浜	鹿児島県		サテライトみぞべ
					サテライト阿久根
					サテライト鹿児島
静岡県	伊東温泉 静岡				サテライトきもつき
					サテライト薩摩川内
中部	競輪場	場外車券売場			
富山県	富山		沖縄県		
石川県					
岐阜県	岐阜 大垣				
愛知県	名古屋 豊橋	サテライト名古屋			
		一宮場外			
三重県	松阪 四日市	川越場外			

(資料) JKA 資料等より作成

## ②競輪選手およびレースの種類

- ◇競輪選手は 2,336 人（うち女子 123 人：平成 30 年 12 月 1 日現在）であり、概ね全国の競輪場を拠点として練習等を行っている。熊本競輪場を拠点とする一般社団法人日本競輪選手会熊本支部所属の選手は 77 人（うち女子 3 人）である。
- ◇競輪選手は S 級（男子）、A 級（男子）、L 級（女子）に区分されており、出場できるレースのグレードに違いがある。
- ◇競輪レースのグレードは表 1-2 のとおりであり、通常は GⅢ以下のレースを全競輪場で開催している。GⅠ・GⅡ（特別競輪等）は上位選手が出場し売上・来場者数ともに多いが、開催できる場が限られている。（熊本競輪では平成 3 年度以降 4 回誘致している）
- ◇ガールズ競輪（女子）については、平成 24 年 7 月からレースが実施されている。人数が少ないため、FⅠまたは FⅡの中で実施されている。

表 1-2 競輪レースのグレード

グレード	内容
GP	◇「KEIRIN グランプリ」毎年 12 月 30 日に行われる 1 年の総決算といえる競輪界最高峰のレースである。（優勝賞金 1 億円）
GⅠ	◇S 級上位選手が参加するレースであり、優勝者は GP 出場権を獲得する。現在は「日本選手権」「オールスター」「高松宮記念杯」「全日本選抜」「競輪祭」「寛仁親王牌」の 6 つである。
GⅡ	◇GⅠに次ぐ格付のレース、GⅠと同様に選考基準に基づいて選出、GⅢよりも賞金が高い。現在は「共同通信社杯」「サマーナイトフェスティバル」「ウィナーズカップ」「ヤンググランプリ」の 4 つである。
GⅢ	◇主に各競輪場の開設を記念して行われる S 級選手のためのレース（4 日制）である。
FⅠ	◇S 級選手と A 級選手が出走するレースである。
FⅡ	◇A 級選手のみが出走するレースである。

（資料）JKA 資料等より作成

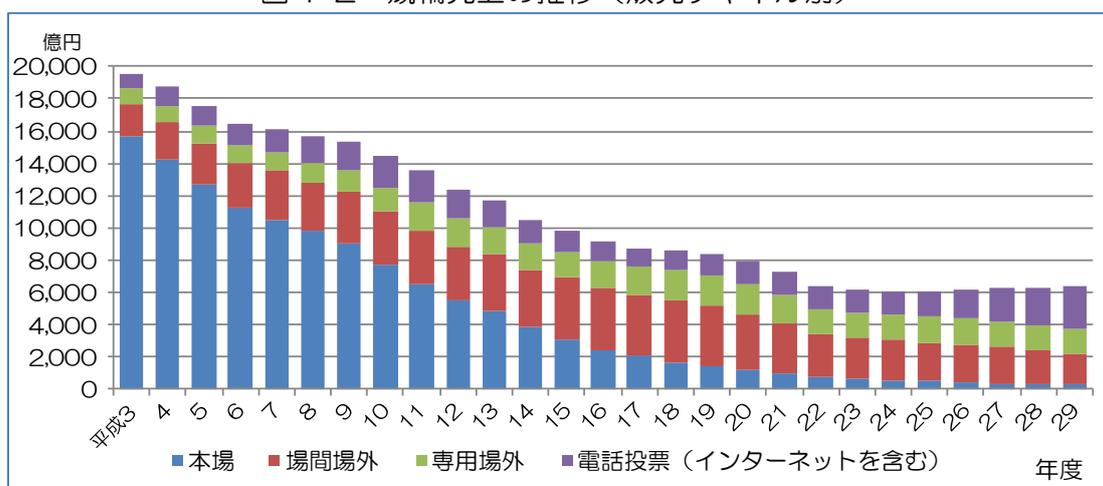
- ◇開催時間帯は、モーニング（午前 9 時前～午後 2 時頃）、昼間（午前 10 時 30 分～午後 4 時 30 分頃）、ナイター（午後 3 時～午後 8 時 30 分頃）、ミッドナイト（午後 9 時～午後 11 時 30 分）の 4 つに分けられる。
- ◇熊本競輪場では照明装置がないため、現状ではナイター、ミッドナイトは実施できない。

## (2) 全国における競輪の売上と収支状況

◇売上は昭和の時期には概ね増加を続け、平成3年度のピーク時には2兆円近くに達していたが、その後年々減少を続けた。その傾向は20年余り続いたが、平成26年度より売上が増加に転じた。

◇要因として、電話投票（インターネット投票）の売上が増加しており、とりわけ夜間に行われるミッドナイト競輪を中心に売上が増加している。

図 1-2 競輪売上の推移（販売チャネル別）

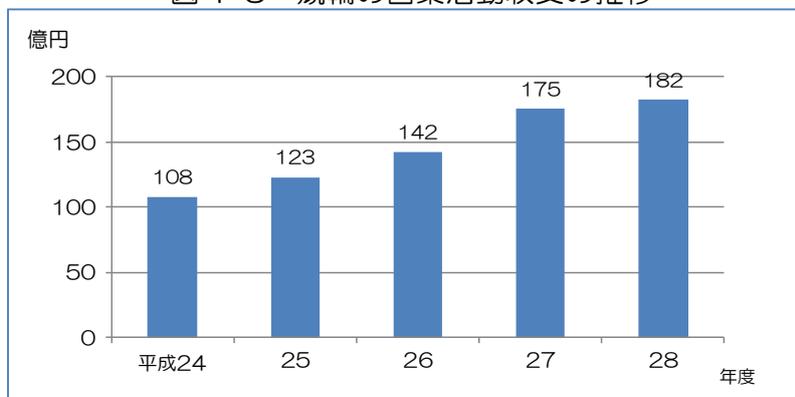


（資料）JKA 資料等より作成

◇競輪の営業活動収支（競輪事業を行うことによる収益）は、売上増加とともに増加しており、競輪施行者の収支は改善基調にある。

◇収支が改善してきた理由は、売上の増加に加えて、開催にかかる各種経費削減を行ってきたこと、開催日数を削減し1つの開催における売上を集中させてきたことによるものである。

図 1-3 競輪の営業活動収支の推移



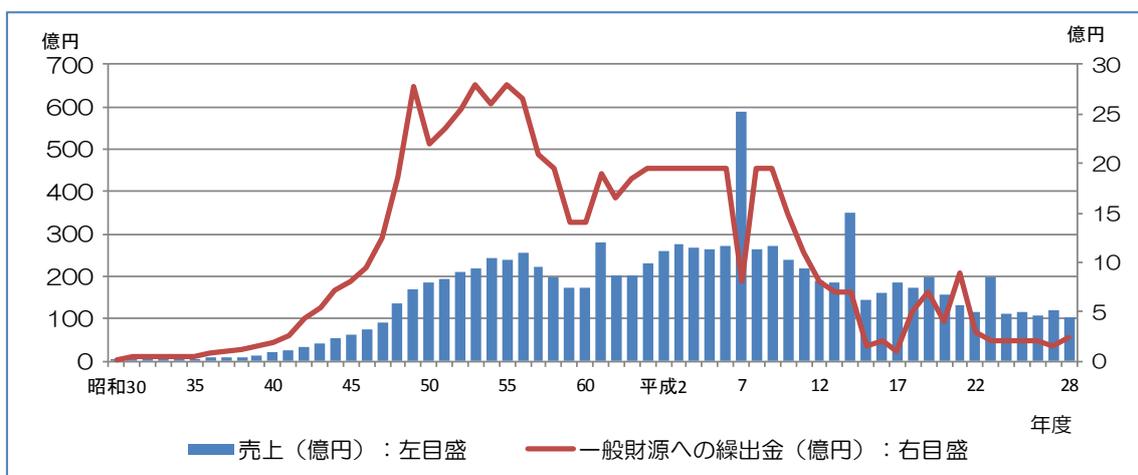
（資料）全国競輪施行者協議会資料より作成

## 2. 熊本競輪の状況

### (1) 熊本競輪の売上と収益

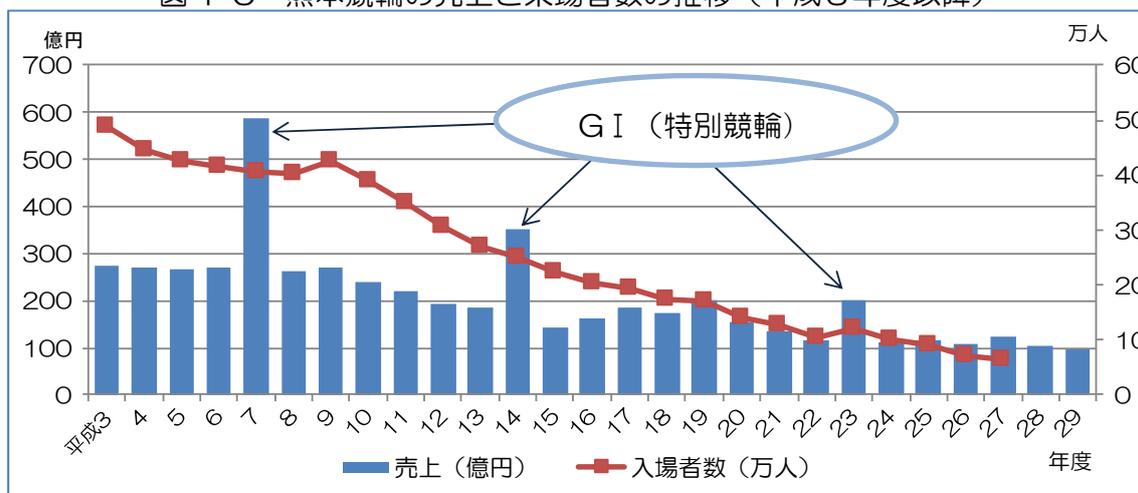
- ◇熊本競輪場は、昭和25年7月に開設以来、平成29年度までに累計660億円以上を熊本市一般財源に繰り出すなど市民生活の向上に大きく貢献してきた。
- ◇昭和50年代に繰出金が多かったのは、現在よりも物価や人件費が低い水準にあり、開催経費の割合が小さかったことなどの要因が考えられる。

図1-4 熊本競輪の売上と一般財源繰出金の推移



- ◇平成に入ってからからは、売上、来場者数ともに減少傾向は続いている。なお、GI（特別競輪）を開催した年には一時的に売上が伸びている。

図1-5 熊本競輪の売上と来場者数の推移（平成3年度以降）



※平成28年度以降は熊本地震の影響により熊本競輪場では開催しておらず、売上は久留米、小倉等での借場開催によるものである。

第1章 熊本競輪場の現状と課題

◇直近5年間の売上については、平成27年度にミッドナイト競輪を小倉競輪場にて実施したことにより持ち直したが、熊本地震により自場開催が困難になったことから、再び減少に転じている。

◇熊本地震後は、久留米競輪場、小倉競輪場等を借り上げて開催しており、収益を維持している。

図 1-6 熊本競輪の売上と収益の状況

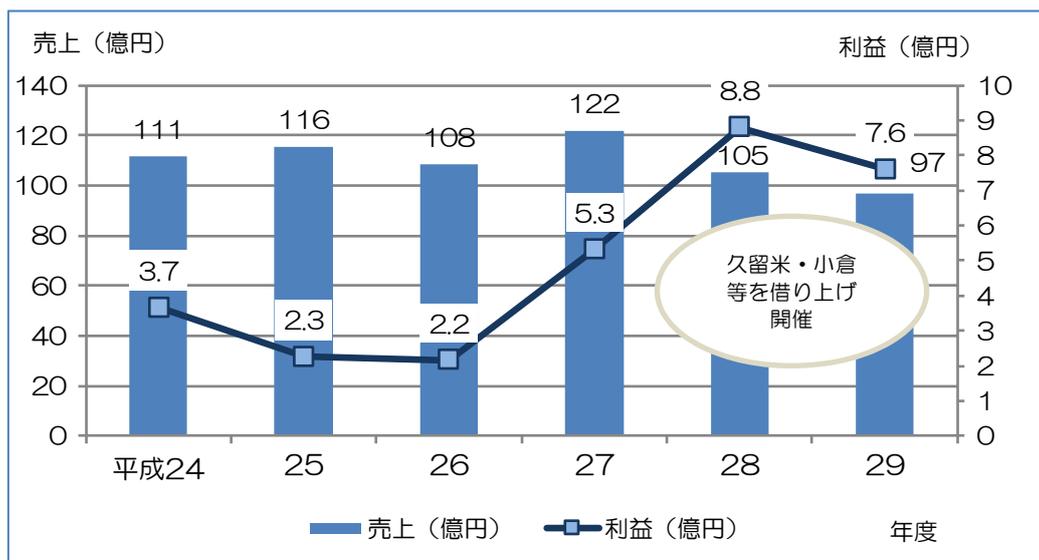


表 1-3 グレード別開催日数 (単位: 日)

年度	25	26	27	28	29
GⅢ (記念競輪)	4	4	4	4	4
FⅠ	18	18	18	6	6
FⅡ昼間	33	30	24	-	-
FⅡミッドナイト	-	-	6	16	12
計	55	52	52	26	22

※平成27年度以降のミッドナイト競輪は小倉競輪場等を借り上げて実施

※平成28年度以降のGⅢ、FⅠは久留米競輪場を借り上げて実施

## (2) 熊本競輪場の施設（地震前）

◇ここでは、主要な施設ごとに熊本地震前の現状と課題について整理していく。

### ①熊本競輪場の施設概要

◇熊本競輪場は、熊本市が施設を所有しており、観客席定員は12,000人と多くの人を収容することができる施設である。

◇主な施設については、来場者が観戦する場所であるメインスタンド、サイドスタンド、バックスタンドを含め、ほとんどの施設が昭和40～50年代に建築されており、老朽化している。

◇競走路は1周500mと長く、みなし直線距離（コーナーを立ち上がってからゴールまでの直線距離）が全国の競輪場で一番長いことが特徴である。

表 1-4 熊本競輪場の概要

所有者	熊本市
所在地	熊本市中央区水前寺5丁目23番1号
開設年月日	昭和25年7月
敷地面積	43,181.63㎡
駐車場	689台収容（敷地外）
競走路	1周500m（みなし直線距離69.5m）
投票所	8ヶ所（窓口109）
支払所	8ヶ所（窓口62）
観覧席定員	12,000人（一般2,940人、特別観覧席1,010人、立見8,050人）
主な施設	メインスタンド（昭和47年9月建設） バックスタンド（昭和56年2月建設） サイドスタンド（昭和43年12月建設） 第2支払棟（昭和45年9月建設） 選手管理棟（昭和49年11月建設） サービスセンター（昭和57年8月建設） 選手宿舎（平成6年6月建設）（敷地外）

②各施設の概要

◇メインスタンド、バックスタンド、サイドスタンド、第2支払棟、選手管理棟サービスセンター、バンク（競走路）の概要は表 1-5 のとおりである。

表 1-5 各施設の概要

施設区分	施設の概要
メインスタンド	<p>◇昭和 47 年に完成し、2階、3階に屋外無料席を 1,098 席配置している。特別観覧席は1階部分のわずかなスペース（16席）のみであるため、特別観覧席の利用者は主にバックスタンドを利用している。</p> <p>◇エレベータ等の昇降装置、多目的トイレがなく、バリアフリーに対応していない。</p> <p>◇1階のバンク側は審判諸室と投票事務室があり、反対側は壁のない半屋外通路（投票所 27 窓）になっている。</p> <p>◇2階には屋外観覧席があり、屋内部分には投票所（9 窓）と客だまりがある。隣接した付属棟に 141 席を配置している。</p> <p>◇3階は屋外席と投票所（13 窓）からなる。最上段にカップルシート、ゴール前をテラススペースとして改修し、観戦環境を確保している。</p> <p>◇4階および5階は開催本部と審判室、写真室がある。</p>
バックスタンド	<p>◇昭和 56 年に竣工した。観覧施設としては最も新しく整備された建物で、994 席の特別観覧席（有料席）、52 窓の投票所を有し、すべて屋内席である。1階には機械室、選手会事務所、2階・3階には特別観覧席、記者席がある。エレベータ等を有しており、障がい者の方の観覧スペースを確保している。</p> <p>◇サービス施設として食堂が1ヶ所、無料湯茶サービスが2ヶ所ある。特別競輪等、記念競輪実施時には、バックスタンドに関係者席や来賓席を確保している。</p>

表 1-5 各施設の概要（つづき）

施設区分	施設の概要
サイドスタンド	◇昭和 43 年に整備され、屋外観客席（1,701 席）を配置している。スタンド下には屋外向き投票所（35 窓）、警備員控室を配置している。
第2支払棟	◇施行者事務所、集計センター、投票所（6 窓）のほか、食堂・売店が入居している。食堂・売店は、ここに集中している。
選手管理棟	◇昭和 49 年に整備された3階建ての建物である。 ◇1階は検車場、ローラー室、出走選手控室、医務室がある。検車場、ローラー室は手狭であり、スペースの拡張が望まれている。2階は選手控室、選手食堂、選手管理室が、3階には番組編成室、賞金室、スタジオ等がある。
サービスセンター	◇昭和 57 年竣工の地域開放を目的とした施設である。インフォメーション、子どもルーム、小ホール、会議室のほか、屋外にプールがあり、地域の方々に利用されている。
バンク（競走路）	◇全国で5ヶ所しかない数少ない500mバンクの1つであり、みなし直線は43ヶ所の中で最長であるという特徴を持つ。 ◇バンク1センター（第1コーナーと第2コーナーの間）に平成 23 年に 600 インチの大型スクリーンを整備し、各種情報提供やレースリプレイ等がなされ、迫力あるレース映像等で来場者の観戦環境を向上させている。 ◇開催時以外にも、競輪選手の練習、アマチュア（高校生）が練習に使用されている。スペシャルオリンピックスの競技、車いす競技者の練習場所としても利用されている。 ◇バンク内は芝生となっており、夏祭り等のイベントに利用されている。バンク内中央には、カメラタワーが建っている。

③駐車場の状況

- ◇駐車場に関しては、競輪場周辺に 689 台の駐車場を保有し、102 台の駐車場を賃借しており、合計で 791 台を確保している、現状では来場者に対して十分な数を確保できている。
- ◇そのうち、3 番は早朝前売来場者用で、6 番と 7 番は民間企業が使用している駐車場を賃借しており、企業が利用しない主に土日（休日）のみの開放となっている。これらを除くと駐車できるスペースは 643 台となる。
- ◇過去に GI（特別競輪）を実施した際には、近隣の駐車場を確保して来場者の利便性を図っている。
- ◇競輪場に近いところ（0 番、2 番、10 番、11 番）の利用が多く、遠いところ（1 番、8 番、9 番、12 番）の利用が少ない状況にある。
- ◇課題としては、すべて競輪場の敷地外にあること、10ヶ所に分散していることから利用者の利便性に欠けるところがある。

図 1-7 駐車場の配置

所有	面積(m <sup>2</sup> )	台数(台)	賃借	面積(m <sup>2</sup> )	台数(台)
第0番	765	46	第7番	1,304	58
第1番	2,370	103	第6番	1,182	44
第2番	1,780	132	賃借計	2,486	102
第3番	1,521	46			
第8番	2,050	92			
第9番	707	42			
第10番	1,197	69			
第11番	2,051	99			
第12番	915	60			
大型バス	397	-			
所有計	13,752	689	合計	16,238	791



④現状施設の課題

◇現状施設の課題を整理すると表 1-6 のとおりである。

表 1-6 現状施設の課題

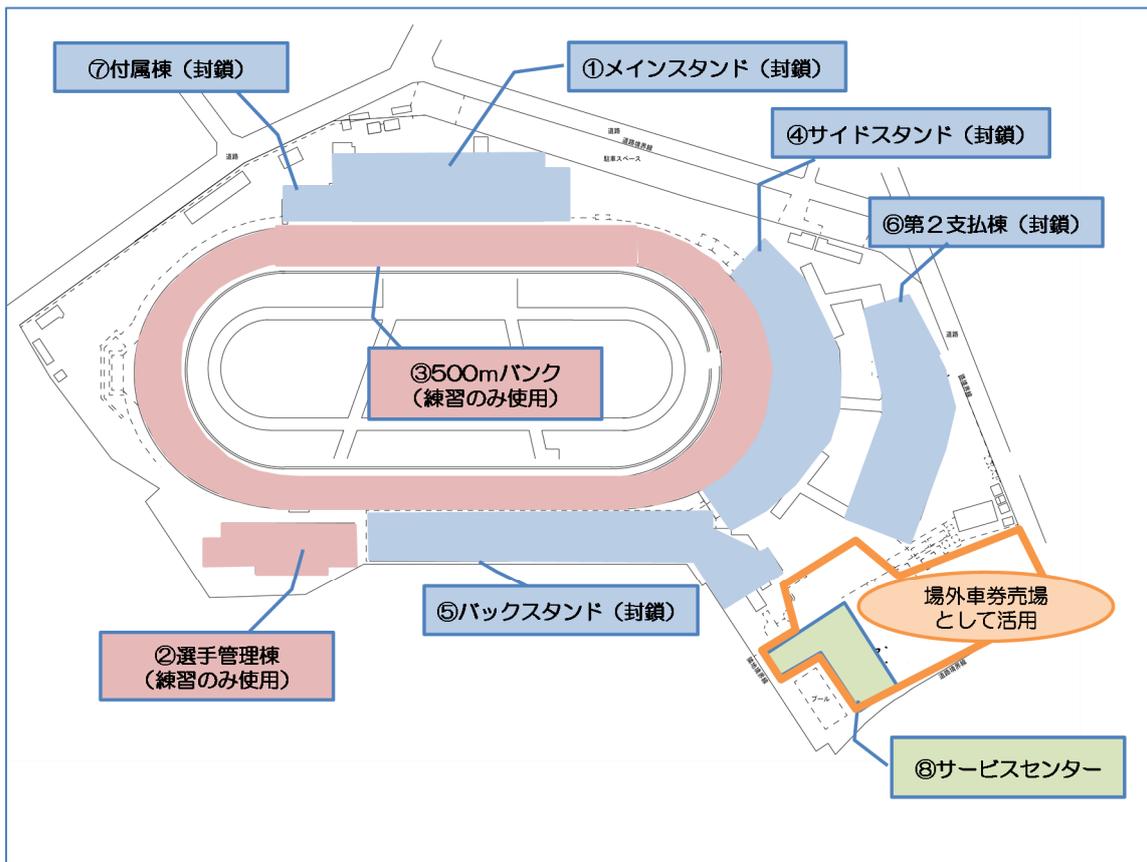
- ◇競輪場の施設は 12,000 人収容であるが、来場者が減少しており、施設規模が来場者数に対して過大である。
- ◇施設全体が老朽化しており、メインスタンドではエレベータ等の昇降装置、多目的トイレなど、バリアフリーへの対応ができていない。
- ◇屋内席（特別観覧席）は主にバックスタンド側に整備されており、メインスタンド側の屋内席が少ない。
- ◇メインスタンド 1 階のバンク側には観覧スペースが確保できていない。
- ◇サイドスタンドの投票所はスタンド下になっており、観覧席と投票所との移動が必要となる。
- ◇第 2 支払棟に施行者事務所、集計センターがあるが、投票所はメインスタンド、バックスタンド等に分散している。効率的に運営するためには、管理運営に関する機能を移転集約化することも必要である。
- ◇選手管理棟については、検車場やローラー練習場のスペース、ガールズ競輪に対応するための女性選手用スペースが不足している。
- ◇バンク内は芝生になっているが、中央にカメラタワーがあることから、地域のイベント等での利用促進には、安全性確保などの課題がある。
- ◇駐車場の収容台数は十分であるが、敷地外に分散しており利便性に欠ける。

### (3) 熊本地震後の施設の状況

#### ①地震後の施設活用状況

- ◇ほとんどの施設が地震で被災し、来場者の出入りができないように封鎖している。
- ◇被害がなかったサービスセンターを活用して場外発売を実施している。

図 1-8 熊本競輪場施設配置図（現状の利用状況）



②各施設の被害状況

◇被害状況と現状については、表 1-7 のとおりである。

表 1-7 被害状況と現状

	被害状況調査の状況	
<p>メインスタンド (付属棟)</p>	<p>◇鉄骨躯体は大きな損傷はなく、1～3階の内外装の被害も軽微である。</p> <p>◇大屋根に接続している4階、5階の審判室、開催本部、写真室は地震による大屋根の振動のため大破している。</p> <p>◇現在は封鎖している。</p>	
<p>バックスタンド</p>	<p>◇鉄筋コンクリート躯体には損傷は少ないが、観客席の大型ガラスの落下、内装材の崩落など被害が大きい。</p> <p>◇現在は封鎖している。</p>	

表 1-7 被害状況と現状（つづき）

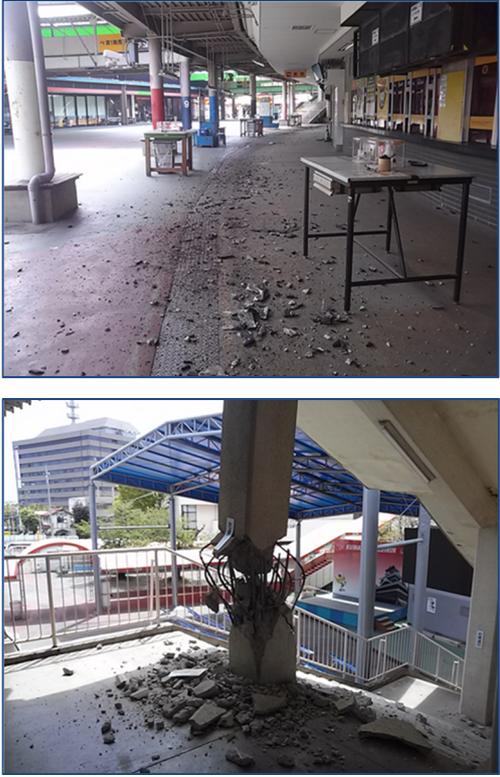
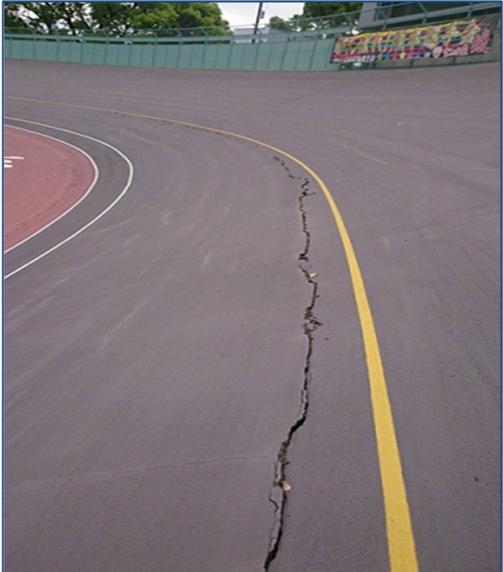
	被害状況調査の状況	
<p>サイドスタンド</p>	<p>◇スタンド席の大屋根の柱脚部が破損し、今後の地震により傾く危険性がある。内部は階段室の壁が崩落している。</p> <p>◇現在は封鎖している。</p>	
<p>第2支払棟</p>	<p>◇鉄骨躯体には大きな損傷はないが内外装が破損している。サイドスタンドへの渡り廊下が大きく破損したが、現在は危険部分を撤去済み。</p> <p>◇競輪開催の情報機器等があるため一部は運用中だが、一般来場者は使用していない。</p>	

表 1-7 被害状況と現状（つづき）

	被害状況調査の状況	
選手管理棟	<p>◇鉄骨躯体には大きな損傷はないが内外装が破損している。</p> <p>◇被害が大きい場所は立ち入り制限し、1階の検車場・ローラー室を競輪選手が練習時に使用している。</p>	
サービスセンター	<p>◇躯体・内装とも大きな被害はない。</p> <p>◇現在は、場外車券発売所、施行者事務所として利用している。</p>	
バンク（競走路）	<p>◇競走路に大きく亀裂が入っており、部分的な補修を行い地元競輪選手が練習に利用している。</p> <p>◇競輪を再開するためには、表層のみでなく路盤・路床などの全面的な改修が必要である。</p>	

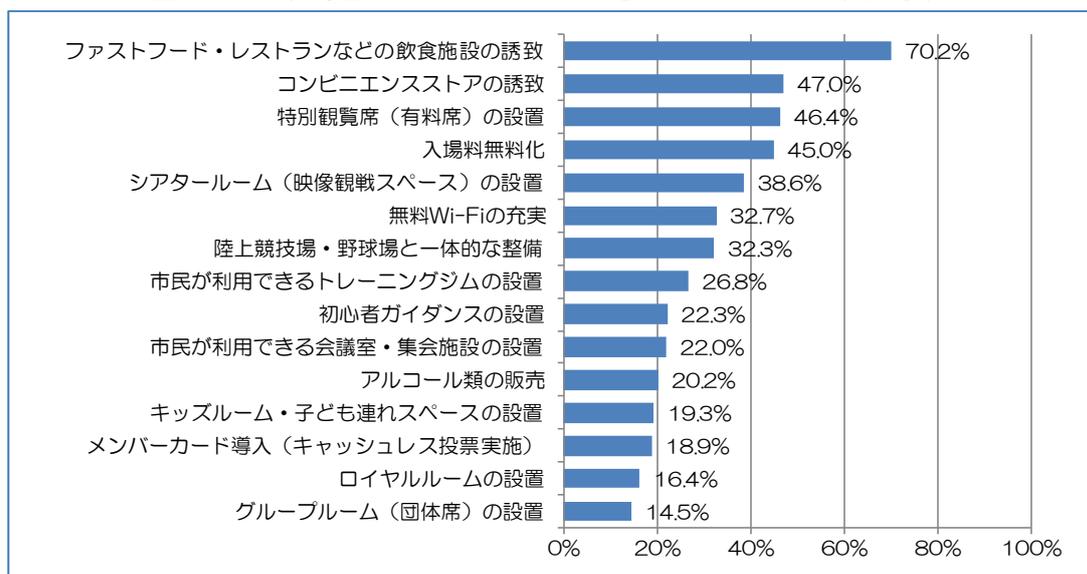
#### (4) 施設・サービスに関する来場者のニーズ

- ◇地震前においては、飲食・売店をはじめとした各種サービスが場内にて提供されていたが、地震後は場外発売のみとなりサービスの提供ができなくなっている。
- ◇そこで、競輪場を整備するにあたり来場者のニーズを把握するために、来場者へのアンケート、インタビューを実施した。
- ◇本項ではその結果について整理し、今後の施設整備の課題を抽出する。

##### ①来場者アンケート

- ◇施設整備にあたり、熊本競輪場を実際に利用されているファンのニーズを把握するため、来場者へのアンケート調査を実施した。
- ◇施設・サービスの充実を求められている項目の上位は、「ファストフード・レストランなどの飲食施設の誘致(70.2%)」「コンビニエンスストアの誘致(47.0%)」「特別観覧席の設置(46.4%)」「入場料無料化(45.0%)」「シアタールーム(映像観戦スペース)の設置(38.6%)」「無料Wi-Fiの充実(32.7%)」「陸上競技場・野球場と一体的な整備(32.3%)」「市民が利用できるトレーニングジムの設置(26.8%)」「初心者ガイダンスの設置(22.3%)」「市民が利用できる会議室・集会施設の設置(22.0%)」「アルコール類の販売(20.2%)」「キッズルーム・子ども連れスペースの設置(19.3%)」「メンバーカード導入(キャッシュレス投票実施)(18.9%)」「ロイヤルルームの設置(16.4%)」「グループルーム(団体席)の設置(14.5%)」であった。
- ◇整備においては、これらの結果を参考とした施設・サービスの充実が求められる。

図 1-9 来場者アンケートによる施設・サービスの充実要望



##### ②来場者インタビュー

- ◇熊本競輪の来場者等から公募し、座談会形式によるインタビュー調査を実施した。
- ◇来場者へのインタビューからは、アンケートと同様の施設・サービスの充実要望に加えて、入ってみたいくなる施設の整備、イベントやスポーツの会場としての有効活用などが要望された。
- ◇地域コミュニティや防災に資する機能を持たせること、敷地外であるが選手宿舎の有効活用についても要望があった。

表1-8 来場者インタビュー結果

<b>&lt;施設整備について&gt;</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>◇広すぎる施設をコンパクトにまとめる（駐車場を敷地内に）</li> <li>◇外柵を低くし内部が見やすい、入りやすい施設にする</li> <li>◇清潔で安心な施設、バリアフリー対応の施設とする（トイレ等）</li> <li>◇バンク内観戦など、新しい観戦形態への工夫をする</li> <li>◇映像を見て観戦・投票ができる外向前売の施設を整備する</li> </ul>
<b>&lt;サービスについて&gt;</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>◇キャッシュレス投票の導入、ポイントサービスでの購入促進</li> <li>◇飲食店やコンビニエンスストアの誘致(地域や運動公園利用者への利便性を図る)</li> <li>◇無料 Wi-Fi の提供等 IT 対応の徹底、有料席に充電コンセントの設置</li> <li>◇無料湯茶サービス、無料送迎バス等の見直し</li> <li>◇出走表、マークカードや鉛筆の配置を見直し、無駄に使い捨てないように</li> <li>◇若年層へ対応した宣伝活動の実施（YouTube 等）</li> </ul>
<b>&lt;スポーツ会場としての有効活用&gt;</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>◇フットサルコート、バスケットボールコートや3on3等のコートの併設</li> <li>◇バンク外側の斜面等を利用したボルダリングの設置</li> <li>◇BMXコース、サイクリングコース、スケートボードスペース、車いすバスケットコートなどの整備</li> </ul>
<b>&lt;イベント会場としての有効活用&gt;</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>◇多くの人々の来場が見込めるような施設とする</li> <li>◇イベント会場としての賃貸収入が得られるような施設とする</li> <li>◇イベント会場対応のため、可動式の中央塔、バンク内に電気・水道の整備</li> <li>◇イベント実施時はレース映像を流し、競輪に興味を持たせる工夫が必要</li> <li>◇コスプレイベント、わんぱく相撲、中古車フェア、地域のフリーマーケット、マルシェ(朝市)会場、会社の運動会やバーベキュー等の飲食会場等がイベント候補</li> </ul>
<b>&lt;防災拠点としての位置づけ&gt;</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>◇地震における避難が十分にできるような施設として整備</li> <li>◇テントによる一時避難所対応、マンホールトイレ等の設置</li> <li>◇避難物資の備蓄、物資配給拠点としての役割を担う</li> </ul>
<b>&lt;選手宿舎の活用&gt;</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>◇宿舎を開放し、学生等の強化合宿の会場、ピークシーズンの民泊として活用</li> </ul>
<b>&lt;アマチュア自転車愛好者への対応&gt;</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>◇可能な限り練習ができるような環境をつくる。(ナイターの時間帯の開放)</li> <li>◇自転車整備スペース、シャワー・更衣室の設置、自転車ロッカーの設置</li> </ul>

